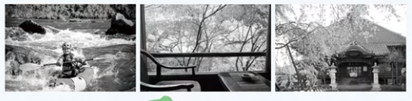
～ 藍で人をつなぐ ～

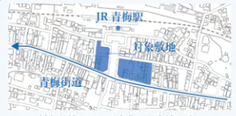
「道の駅　おうめ」

01 青梅市について



青梅市は東京都の西部に位置している人口 13 万人のまちである。市の周囲は雄大な山々に囲まれており、市内には豊かな自然を活かしたレジャースポットが数多くある。都心からのアクセスも比較的良好なため、週末には都心から自然を求めて多くの人々が訪れる場所である。

02 敷地 | 中心市街地の空洞化が進む青梅駅周辺



対象敷地周辺図（出典：国土地理院）

古い商店が立ち並ぶ青梅駅周辺の様子

今回設定した敷地はＪＲ青梅駅南側約 300ｍの敷地である。敷地南側には交通量の多い青梅街道が面している。一般的に道の駅とは違いＪＲを利用してきた人たちの利用も多く想定している。

JR 青梅駅から 2 駅進んだ JR 河辺駅前に大型商業施設が出店した影響で大型商業施設の郊外進出が進み、顧客を奪われた青梅駅前の商店が次々とシャッターを下ろしているという状況が続いている。

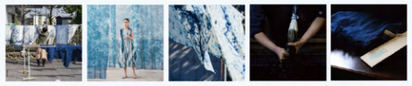
03 渋滞が多発する青梅街道

新・旧青梅街道の位置関係図（出典：国土地理院）

渋滞する青梅街道の様子

今回の敷地南側を通る青梅街道は、都心部から青梅市の山や川といった観光スポットにアクセスする人などが普段からよく利用する道である。そのため観光客の車やバイクなどの交通量が日常的に多い。さらに敷地から西側に約 300ｍほど進むと新・旧青梅街道が合流し、一本道となるため、頻繁に混雑が発生する。このような道の混雑は周辺地域の住民も生活にも悪影響を及ぼしている。そのため今回は道の駅をマイカーから電車への乗り換え拠点とする。

04 江戸時代から青梅に伝わる藍染に着目



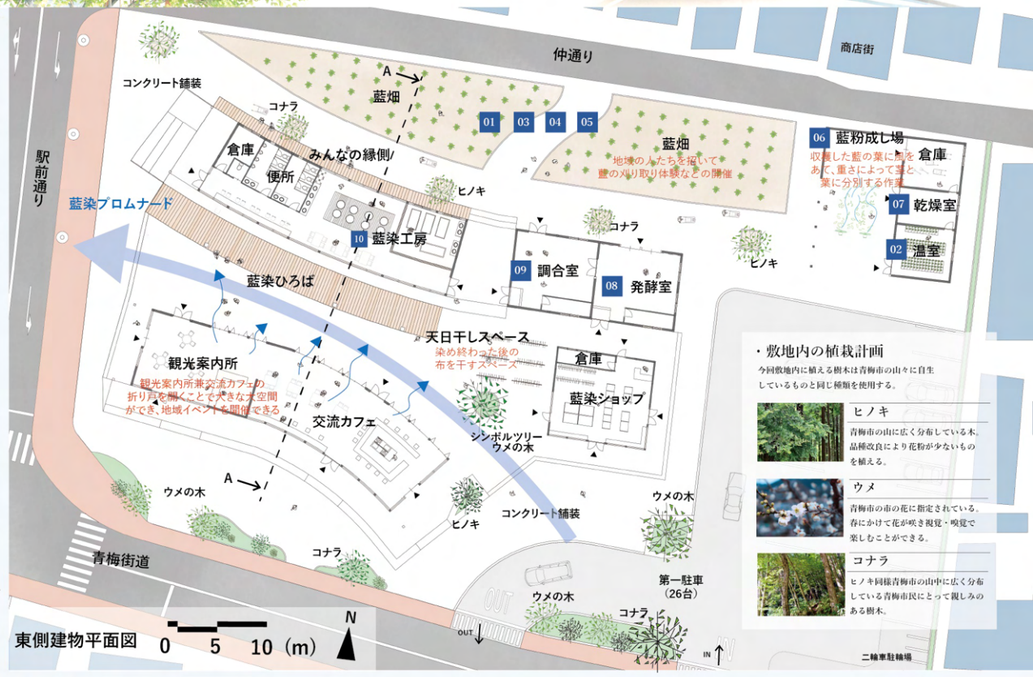
青梅市内の藍染工房の様子（出典：草壺苑公式 Instagram）

道の駅内に藍染工房を設置、地域のつながりを深める拠点へ

青梅ではかつて江戸から明治にかけて「青梅縞」という縞織物が織られていた。青梅縞は生地やデザインの高い評価を受けてブランド品として全国に流通していた。今回はそんな青梅のアイデンティティとも言える藍染を原料の葉から育てて染料にし、染めるといった一連の流れを道の駅内で、地域の人たちを巻き込んで行える場を設計する。

05 葉から育てて染めるまで、 藍染の一年

地域を巻き込む藍染ワークショップ年間スケジュール
※藍染体験は一年を通して行うことができる



・敷地内の植栽計画

今回敷地内に植える樹木は青梅市の山々に自生しているものと同じ種類を使用する。

ヒノキ

青梅市の山に広く分布している木。品種改良により花粉が少ないものを植える。

ウメ

青梅市の市の花に指定されている。春にかけて花が咲き視覚・嗅覚で楽しむことができる。

コナラ

ヒノキ同様青梅市の山中に広く分布している青梅市民にとって親しみのある樹木。

自分たちの町は自分たちで飾る。藍染と青梅駅周辺の 10 年後のビジョン

01. 藍の栽培を地域の恒例行事に（2 年後）

藍染の染料を葉の栽培から行う場合、１年という長い時間が必要になる。その際に藍の植え替え体験などのワークショップを地域の小学生やお年寄りなど幅広い世代を巻き込んで開催していく。

02. 藍染ストリートの策定＆装飾（3 年後）

幅広い世代の人たちを巻き込んで作成した藍染を商店街の街灯に飾る。装飾を行う中でも特に集中して装飾する部分を藍染ストリートとして定め、段階的に装飾していく。

03. 景観の向上による商店街空洞化の改善（5 年後）

商店街の景観が向上したことによって観光客が増加し現在空き店舗になっている建物に新たな店舗が出店。

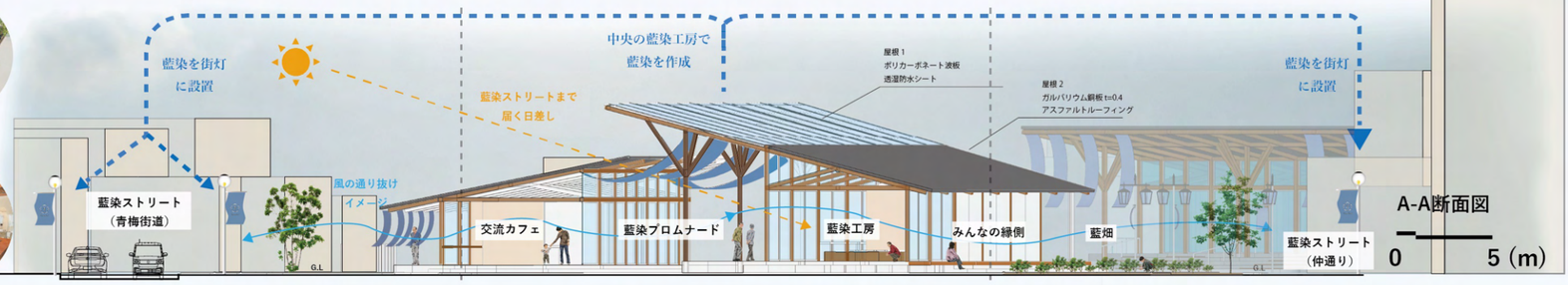
04. 魅力ある働く場の創出（7 年後）

駅前商店街に新たな店舗が出店したことで、地域の雇用が増加する。それに伴い、若者にとって魅力ある働く場が地域に生まれる。

05. Ｕターン／Ｉターン移住者の増加（10 年後）

一度青梅を離れていた人たちの中でも青梅にＵターン移住する選択をする人が増え始める。他県の人も青梅に興味を持つ人が増え始め、Ｉターン移住をする人が現れる。

断面計画：青梅街道から続く藍のプロムナードと暮らしのグラデーション



① 観光に来た人たちがメインのエリア

青梅街道はツーリングやサイクリング、歩いて駅周辺を散策する観光客がよく見られる。そんな交通量の多い青梅街道に面している敷地南側のファサードには暖簾のように藍染を設置することで、観光客の目を楽しませる。

② 地域の人と観光に来た人が混ざりあうエリア

中央のエリアは敷地南側（青梅街道側）からアプローチしてきた観光客の人たちと、敷地北側（仲通り側）から来た地域の人が交わる部分である。そのため両者の交流を促進する交流カフェを設けている。また敷地を東西に抜ける藍染プロムナードが通っており、上部に吊り下げられた藍染めのアーチが優しく人々をつつみこむ。

③ 地域の人たちがメインのエリア

敷地北側の仲通りに面した地区は住宅地の中に商店が点在しているような場所である。線路を渡った 500ｍほど先には小学校もあり、この道は地域の人たちが買い物に行ったり、小学生が登下校に利用するなど、地元の人たちの利用が多い通りである。そのような通りに藍畑を設けることによって、この道を通った時に藍が視線に入り、藍に対して興味をもってもらえることを目指して配置した。